

# 《審議会報告・概要版》

## 総合計画審議会 第3回 第3部会

平成18年7月25日(火)午後1時30分  
市役所本館6階 第3委員会室

(次第)

### 1 開会 (会長)

### 2 (1) 前回意見と事務局対応案について

#### (2) 追加審議

- 資料1に基づき、前回意見に対する事務局対応案を説明した。
- 資料2に基づき、第1・2部会で出された意見の概要を説明した。

(説明者：計画調整課 吉川副参事)

- 時代の潮流、基本構想及び基本計画について追加審議を行った。(主な意見は以下のとおり)

### 3 部会意見の取りまとめ

### 4 その他

- 次回審議予定の基本計画各論について各委員より質問等を出してもらった。

(主なものは以下のとおり)

- 次回(第4回)の予定について確認した。

審議内容 基本計画各論

日時 平成18年7月25日 午後1時30分から

会場 本館6階第3委員会室

以上。

終了：午後4時30分

(主な意見) 各部会での意見は別添意見一覧を参照ください。

#### 時代の潮流

「かつてない大都市・新潟」に違和感を感じる。「かつてない」は今までとは異なるイメージであるが、長い歴史の中で合併市町村の思いをひきつぎながら新しい新潟市ということであり、継続のなかで新しく生まれる「創生」のイメージではないのか。

潮流の「3.人口減少、少子高齢化」に、男女共同参画の視点が含まれているとは思いますが、男女共同参画は見出しにあったほうがよいと思う。

潮流の「3.人口減少，少子高齢化」のタイトルで，人口減少と少子高齢化は潮流ではあるが，この潮流をもとにどういったまちづくりをすすめるかというものをタイトルにするべきではないか。

人口減少・少子高齢化の新潟市の傾向の修正があったが，この傾向は全国でも同じものであり，もう一步踏み込んでほしい。

高齢化は，現在すでにその状態になっている。少子高齢化は成熟した社会で現れるものであり，「成熟社会としての新潟市」といった文言があるとよいのではないか。

「3.人口減少，少子高齢化」のタイトルのみ，ほかの見出しと異質な表現になっている。新潟市としてこうしたいという意思が表れるものにしたほうがよい。

少子高齢化はマイナスなイメージ。「長寿社会」や「お年寄りがいきいき暮らす成熟社会」などにしたほうがよいのではないか。

男女共同参画を進めるには企業や行政の支援が必要であり，そうした視点を入れることにより，新しい新潟市の姿勢が打ち出せるのではないか。

新潟市は全国平均より出生率が低いとの記載があるが，数年間の傾向や合併後の状況など，踏み込んで記載してはどうか。

合併した市町村の家族構成は3世代の世帯が多いときいている。このようなことは，これからのまちづくりを考えるとときに影響があるのではないか。

「5.自分らしく豊かな生活を送れる社会へ」で，「送れる」ではなく「送ることのできる」  
「送られる」ではないか。

「5.自分らしく豊かな生活を送れる社会へ」で，「豊かな生活」ではなく「豊かな人生」ではないか。

## 基本構想

まちづくりの理念に「開港」とあるが，開港に関する施策がない。これから開港するようなイメージもあり，「開港」は削除したほうがよいのではないか。

P15 の図で，「NPO 等」には，NPO，自治会，区自治協議会が含まれると思うが，他都市はコミュニティ施策を自治会を無視して進め失敗した例もあり，NPO が最初ではなく，まず自治会があるのではないか。自治会・区自治協議会・NPO がそれぞれ分担して役割を果たすのだと思うが，もっと細かい用語の整理が必要ではないか。

愛知県やさいたま市では，NPO と行政の協働のルールブックを作成している自治体もある。

「地域」の定義であるが，やはり地域は地元を指すように感じる。ほかによりよい用語がないか。

「環境重視のまちづくり」で，「また環境問題にも力を注ぎ」の「また」と「にも」は不要。新潟市は巻原発を NO と言ったところであり，新エネルギーを推進するということを基本構想の中で姿勢を明確にするべきではないか。

「健やかなくらしづくり」で，不規則な食生活による生活習慣病の増加が記載されているが，根拠が明確なものなのか。

「不規則な食生活や生活習慣病が増えていることから」としてはどうか。

「不規則」というより「不適切」「アンバランス」な食生活ではないか。

健やかな生活で、健康の概念が「ヘルス」から「ウェルネス」に変化してきており、障害や年齢に関係なく、自分が主体で行政が支援するという形に変わってきている。行政はあくまでサポートするのであり、行政が責任を持つような表現は好ましくない。

「健康づくり日本一のまちを目指す」とあるが、本当に目指すのか。指標を出していくのも難しいと思うが。

「ウェルネス」などは、一般の人にはわかりにくい。表現するのがむずかしいところではあると思う。

「健やかなくらしづくり」では、「高齢化」ではなく「長寿社会が進み」とするなど、その場にあわせた表現としたほうがよいのではないか。

「充実した高齢期を迎える」というような表現にしてもよいのではないか。

「少子高齢化」と、少子化と高齢化がくっついているが、セットにして使ってよいのか。

「少子化」という表現は、子どもを産みなさいと強制されているように感じる場合もある。産みたくても産めない人もおり、産まない母親が悪いという感じにならないような表現にしてほしい。同様に、結婚する・しないもひとつの選択であり、結婚しないことがマイナスのような表現にしないほしい。

少子高齢化で、子どもを産むことは高齢者を支えるためではなく、子どもが子どもらしく健やかに育つことが重要なのであり、表現に気をつけてほしい。

「高齢者福祉」は高齢者を助けるイメージであるが、パワーのある元気な老人がバリバリ活躍する、といった感じの表現がよいのではないか。

「福祉」という表現を使わないと、福祉を軽視した印象もあり、難しい。

「快適なくらしづくり」の「住環境の整備」がひっかかる。住環境は広い意味ではこれでよいが、狭い意味では住まいそのものであり、狭い意味に誤解を招かないよう、「まち・くらしの環境の整備」としたほうがよいのではないか。

施策としては「住環境」があったほうがよいと思う。「まち・くらし」では弱いのではないか。

## 基本計画

今までの総合計画の変遷がわかるものを枠組みの中などにいれるとよいのではないか。

人口想定で、「子育て支援の推進」を追加したが、「子どもを産み・育てやすく、女性が働きやすい環境づくり」の視点が重要。行政側の視点で書かれているが、市民にはわかりにくいので、この表現を活かした形で記載してほしい。

「コンパクトなまちづくり」は、ほかになにかよい言葉がないか、再度検討してもらえないか。

都市機能を交通と国際交流に分けるとわかりやすいのではないか。

田んぼが住宅やスーパーなどになっているが、行政としてそうした建物を建てないように働きかけはしているのか。

食と花のにいがたの魅力を高めるには、農村集落の環境整備が必要で、それは農業者だけでなく都市部の人も含め多くの人によって基盤を守っていき、地域を共に形成していく必要がある。そうしたベースになる施策を取り組むと明示したほうがよいのではないか。

「都心」の記載について、記載のとおりであるが、実現できるのか。万代周辺はまちなか

の過疎といわれ商店街を形成できないような状況であり、ここを都心と位置づけるには、相当な計画が必要になる。P45の政策との整合性など、よく検討・精査すべき。用語の説明は巻末の用語集ではなく、同じページの下部にあるとよい。

「少子高齢化」が、P17の人が集うまちづくり、P19の健やかなくらしづくりと安心なくらしづくり、P20の人を育てる環境づくりにあり、少しくどいように思う。

目線として若者は落としやすい。「大切にされる若者」の視点があるとよい。

総合計画の冒頭にプロローグのようなものを置き、これからの新潟市の志と自治の歴史を踏まえて歩みだす自助・互助のまちづくりを詩的に書くとよいのではないか。

「明日の新潟を切り拓く」といった勢いのある前向きな言葉を使ったほうがよい。

課題と施策の記載が対応していない箇所がある。

施策のタイトルだけでは取組みがわからないものがある。

構成を、体系 現況 課題 施策展開 としたほうがよいのではないか

具体的に、何をいつまでにやる、という記載がない。

今まで取り組んできたことは記載できるのか。継続なのか新規なのか、わからない。

子育て支援の充実で、13の施策があるが、若者の視点がない。また、教育保障は子育て支援の要望のトップにくるものであり、入れていただきたい。再就職支援も入れてほしい。

子育て支援の充実で、企業への働きかけをひとつ起こしてほしい。

新潟で里帰り出産を希望しているができない人の話を聞く。現況基礎データの146ページに医師・病床数があるが、これを専門別に出せないか。

子どもの虐待防止は記載があるが、DVやストーカーなどあらゆる暴力の根絶のサポートについての記載が必要。